

## 1 事業総括

今年度は、79世帯が入所し、入所目標102世帯を23世帯（22.5%）下回り、前年比では、113世帯の入所実績に対し、34世帯（30.1%）の減となった。入所者の特性では、暴力逃避（20世帯）・親族不和（17世帯）・立ち退き（10世帯）等の理由が多かった。一方、退所は84世帯あり、そのうち63世帯（75.0%）が居宅移管により社会復帰をした。

資金の支出では、公金取扱いの責任を持ち、施設運営に必要な各種工事や各種事業に資金を支出した。また、収支予算では用途や目的に応じて市場価格を調べ、適切且つ公平、計画的に予算を執行した。更に、収支状況は会計システムで管理し、毎月、本部に報告を行い、予算を管理した。

利用者支援では、本人の希望と実施機関の方針に基づき、支援を行った。利用者支援では、「明るく・笑顔・丁寧」の理念を掲げ、本人と密接に係わり利用者本位の支援を実践した。また、関係機関とは、常に必要な情報を共有し連携を図った。第三者評価の利用者調査では、23世帯中17世帯が「満足（13世帯）」「やや満足（4世帯）」として、73.9%の高評価を得た。

地域関係は、堀切南町会主催「桜まつり（4月）」では模擬店の販売を職員が手伝い、施設主催「ショウブまつり（6月）」では町会関係者・住民等を含め162人が参加し、「演芸会：津軽三味線等（3月）」でも地域関係者・退所者を含めて27人が参加して、積極的な地域交流を行った。

また、町会と災害時応援協定を結んでおり、水害等の際は、避難先として地域住民に施設を提供するため、普段から、地域ネットワーク図っており、今年度も、その関係が良好に継続できた。

施設管理では、増圧給水設備点検（年1回）・防虫消毒（年2回）・退所後の居室清掃、修繕や整備を随時実施し、環境美化の推進・施設の老朽化防止を目標に維持管理を行った

人材育成では、多様化する利用者の支援に、適切かつ柔軟に対応できる職員の育成を目指し、研修計画に基づき、施設運営・利用者支援等に必要な研修への参加を促し、能力向上に努めた。

## 〔利用実績〕

(単位：世帯)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所世帯数	79	14	3	7	9	11	4	6	7	3	5	8	2
退所世帯数	84	5	5	10	10	8	8	3	3	10	2	14	6
月末在籍世帯数	平均 27.8	33	31	28	27	30	26	29	33	26	29	23	19
27年度	平均 28.0	27	25	30	33	35	34	27	25	22	29	26	24

## 〔退所理由〕

(単位：世帯)

	自 活	転 居	居 宅 移 管	入 院 除 籍	移 管 福 祉 施 設	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居 帰 郷 ・ 親 族	拘 留 除 籍	死 亡	そ の 他	合 計
28年度	0	0	63	2	10	4	3	0	2	0	0	0	84
27年度	0	3	83	2	12	5	3	0	1	0	0	0	109

## 2 主要目標に対する成果

## (1) 事業継続計画（BCP）及び利用者の安心・安全確保に配慮した施設運営

利用者が安心・安全に生活できるよう防災訓練では、火災、地震、水害、管理人1人体制等の内容を取入れ、緊急時下、職員が状況に応じて柔軟に活動できるように訓練をした。

## (2) 利用者の個別状況を的確に把握した支援を行い、利用目的達成を推進

利用者とは丁寧に関わり、福祉事務所の支援方針に基づき、地域社会への復帰を推進した。

## (3) 随時、速やかに居室整備を行い、即時の利用依頼に応じられる体制を推進

利用者が退所した後、速やかに、居室内の清掃や整備、修繕工事等を行って居室内の環境を整え、特人厚バックアップセンターの入所依頼にも、即時、応えられる体制作りをした。また、新規入所者には、清掃や整備等を終えた、清潔な居室を提供した。

## (4) 地元町会等の交流を促進した地域福祉の実践及び強化

施設や町会が主催する行事に職員が参加して、地元町会や住民と交流を行った。地域住民に多目的室を貸出すなど、地域との連携を図った。

### 3 運営管理

- ・利用者支援では、多種多様なニーズに応じてバックアップセンターの各種相談・施設独自事業のカウンセリング、利用者支援手引きを活用し、利用者の主体性を尊重して個別支援を実践した。
- ・毎朝の安否確認では、利用者の生活状況等の把握に加え、心身の変化・居室内の衛生状態の確認・疾病の発見や早期対応にも力を入れて行い、利用者自身が気づかない・話さない問題等にも速やかに対応し、自立支援の促進、事故等の防止に尽力した。また、職員が不在となる夜間や休日の施設管理状況、利用者の動向等は、管理人の申送りを受けて掌握し、随時、必要な対応をした。
- ・当施設の理念「明るく・笑顔・丁寧」を支援の場面で職員が実践し、利用者が親しみやすい温かみのある関係を作り、利用者の人格尊重、権利擁護・個人情報保護に配慮した支援をした。
- ・DV被害者をはじめ、対応が必要な利用者には、関係機関との連携は勿論のこと、本人へのこまめな声かけや面接の機会を増やし、心身状態を把握して意思疎通を図り、信頼関係作りをした。
- ・利用者に「暮らしのアンケート（26世帯・85.0%回答）、居室アンケート（25世帯・72.0%回答）、福祉事務所には「施設利用後の調査」を行い、現状把握やニーズの把握をした。
- ・施設行事は、懇談会やショウブ祭りをはじめ、各種行事を行い、利用者と職員の親睦を図った。
- ・防災訓練（年6回）は、本田消防署の指導訓練と防災館体験ツアーを取入れて訓練を強化した。
- ・引継（毎朝）職員会議（年6回）支援会議（年12回）にて、各種の情報や意見交換をした。

### 4 保健衛生・環境整備

- ・バックアップセンター保健栄養相談（年24回）を行い、利用者の健康と生活改善に取り組むとともに、バックアップセンター発行「けんこう通信」を全員に配布、健康管理の情報を発信した。
- ・防虫消毒（年2回）・防災自主点検（毎日）・施設内外清掃（週4回及び随時）・ゴミの分別収集の徹底と地元区の資源回収事業の協力を行い、施設の安全管理や利用者の生活環境の維持に努めた。
- ・常時、施設に防犯カメラを設置し、不審者対策強化等を行い、利用者に安全・安心を提供した。
- ・道路に面した2ヶ所のゴミステーションを管理し、地域の美化、施設内の衛生管理を実施した。

### 5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

- ・地元の諸団体に施設の多目的室を貸出して、地域交流の促進・住民サービスの推進を行い、地域住民と交流をした（年48回）。
- ・綾南小学校PTA「ひまわり110番」の活動に協力し、玄関に「こどもひまわり110番」の標示プレートを継続設置し、この活動の趣旨である「犯罪発生の抑止力」「児童が犯罪に巻き込まれることを未然に防止」の活動を行い、子どもの安全を守る協力をした（通年）。
- ・平成21年度より、地元の堀切南町会と災害時応援協定を締結しており、今年度も継続ができた。

### 6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人 NPOサービス評価機構 実施期間：H28.8.1～H29.1.30

全体の講評：

#### 特に良いと思う点

- ① 「確認書」を用いて利用者のニーズや課題を明確化し、地域での自立した生活に移行できるよう支援している。
- ② 関係機関（者）と協力して利用者の出産や育児を支えるなど、安心した生活ができるよう支援している。
- ③ 地域での自立生活を目標に、体調面や精神面を安定させることを第一とし、日頃の様子を細やかに観察している。

#### さらなる改善が望まれる点

- ① 利用者の安全な生活を支えるために緊急通報の環境整備が望まれる。
- ② 職員がリフレッシュできるよう、法人全体のバックアップ体制を含めて、有給休暇の取得促進を期待する。
- ③ 多様な問題を抱える利用者を支えるため、外部・内部研修を通じてさらなる知識や支援技術を習得することを期待したい。

#### 施設コメント：

毎日の安否確認、随時の声掛けを行い、利用者に関わる機会を積極的に持ち、また、関係諸機関とも協働して、利用者の社会復帰を促進した結果が評価された。

一方で、多様化した利用者を少数で支援する現状を踏まえ、職員の支援力向上に向けた知識や技術の習得する機会の充実や期待、職員のリフレッシュに対する休暇取得について、評価機関から、各種の意見があった。

